

# 絵図・古文書から探る郷土の姿

展示期間 前期：令和2年7月25日（土）～8月30日（日）

後期：令和2年9月1日（火）～11月22日（日）

ごあいさつ

じんしんちけんじびきえず くにえず

文書館には、壬申地券地引絵図・国絵図・村絵図など多数の絵図が収蔵されています。昔の絵図には、今も変わらない寺社、今は変わってしまった道や家並みや川の流れ、など様々な情報が刻まれています。これらの絵図と関連する古文書・地誌などの文献資料を合わせて考えると、かつての郷土の姿や人々の営みを再現することも可能です。この展示では文書館で収蔵する様々な絵図と関連する古文書を紹介します。

なおこの展示は、群馬県立歴史博物館で10月17日から始まる企画展『空からグンマを見てみようー国絵図・城絵図・町村絵図ー』との共催で開催します。企画展では、当館収蔵の絵図等も多数展示されますので、合わせてご覧下さい。

令和2年7月 群馬県立文書館

## 1. 絵図の世界へようこそ

### ③ 第四大区三小区群馬郡大友村地引絵図

明治6年（1873）2月



群馬県行政文書・A0181AMA57

明治6年に地券発行事業の関係で作成され、群馬県に提出された絵図です。一筆ごとに地番・字名・面積・所有者などが詳細に記載されています。大友村（現在の前橋市大友町）は、北から東へ滝川が流れ、中央には長尾長見寺・鎮守鏡神社などが描かれています。なお明治10年（1877）頃は、田反別16町1反余・畑反別33町3反余、家数61（うち社6・寺1）、人数男153・女120、の村でした（「上野国郡村誌」）。

## 2. 国絵図の世界 ～天保の国絵図をつくる～

### ⑥上野国全図 天保11年(1840)5月～6月



天保11年に無涙金寿平、すなわち金井研香(1806～1879、金井烏州の末弟)が福島家の先祖福島源次郎真英らに依頼され書写した絵図です。研香は現在の伊勢崎市境島村に生まれ、江戸で谷文晁などに学んだ画家です。

「元禄上野国絵図」と比較すると、石高と村数は一致し、全体の形や内容もほとんど一致します。ただ次の点で若干の独自性も見られます。着色は道と河川・湖沼のみ、館林・沼田が城下の形になっている、南に富士山が描かれているなどです。

伊勢崎市・福島英一家文書 P0110 No.1988

## 3. 上武国境を描く ～高崎市新町・茂木家文書を中心に～

### ⑩烏川・利根川其筋絵図 板東太郎川筋一覽

嘉永7年(1854)霜月日

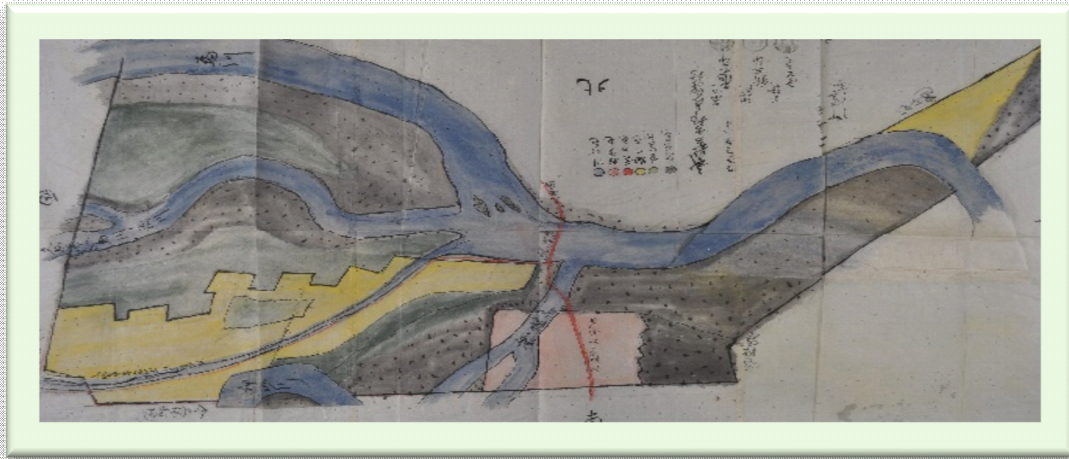


東吾妻町・富澤久幸家文書 P0905 No.2718

倉賀野河岸(現在の高崎市)から中川番所(現在の東京都江東区)までの烏川・利根川沿いの河岸(かし)名、河岸問屋名、関所・番所、渡船場、用水、川を横切る街道、社寺等が描かれています。最近公開の茂木家文書には、これとほぼ同じバージョンの絵図『利根川筋絵図面』(No.870)が残されています。興味深いのは、展示した絵図には天明期(1781～9年)以降の情報が随所に付箋で記されていることです。



⑬〔武州賀美郡毘沙吐村跡絵図扣〕 明治3年（1870）8月



高崎市・茂木愛子家文書 P1302 No.177

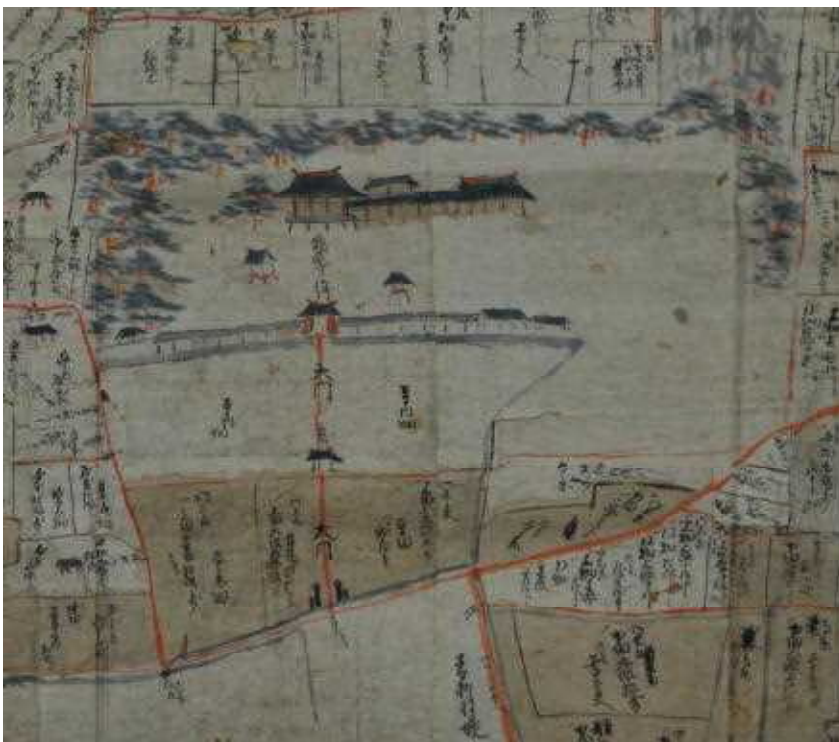
この絵図には、烏川の流路変遷を示す張り紙があり、その下には畑が記されていることから、畑の川欠の様子や、毘沙吐村跡の位置を描いた地図であることがわかります。

作成の経緯はわかりませんが、明治初期の毘沙吐村では隣村との境界や漁業権を巡る争論などが次々と起きていました。こうした争論に関連し作成され、岩鼻県に提出された控えと見られます。

4. 川越藩（前橋陣屋）による絵図作成事業

⑯〔龍蔵寺村絵図〕（御役所へ差上につき下絵図）

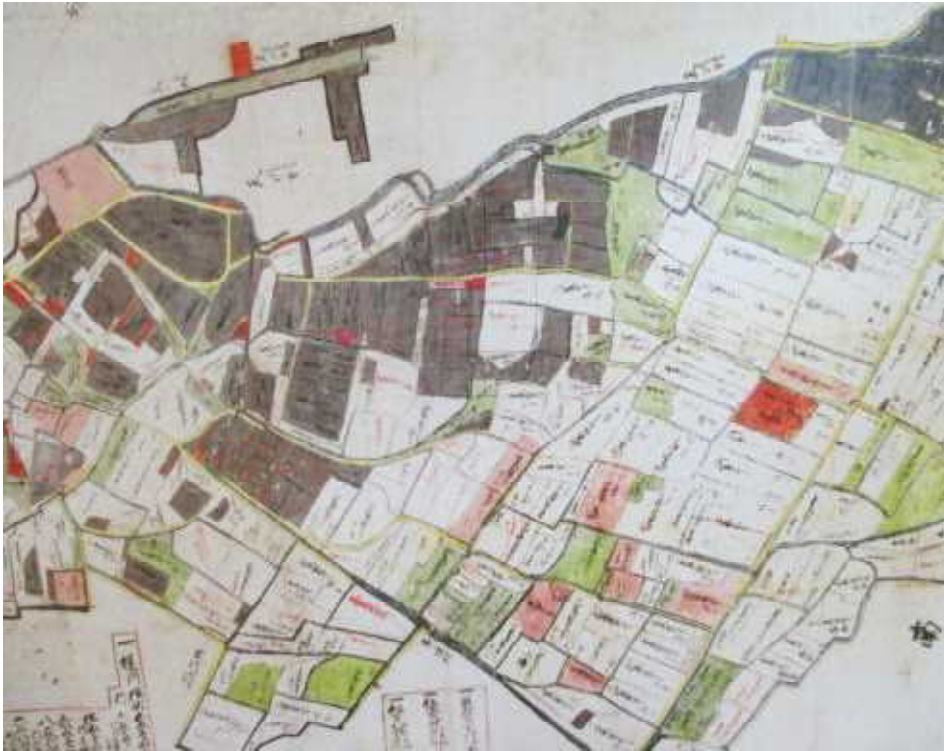
文政4年（1821）1月



勢多郡龍蔵寺村の長百姓常八、組頭良八・宗兵衛・与兵衛、名主利右衛門から御役所（川越藩前橋陣屋）へ差し出された絵図の下図です。

村内の土地一筆ごとの耕作者・地目（屋敷・田畑の等級）・面積などが記載されています。記述の仕方は多少まちまちですが、当時の村の概況を知ることができる貴重な史料です。特に龍蔵寺（青柳大師）はその境内の様子も具体的に描写されています。壬申地券地引絵図とぜひ比較してみてください。

前橋市・龍蔵寺町自治会文書 P8303 No.199



文政4年に川越藩前橋陣屋が作成を命じた村絵図の控えと考えられます。田畑屋敷地の一筆ごとの地目と名請人名、反別が記載されている絵図です。

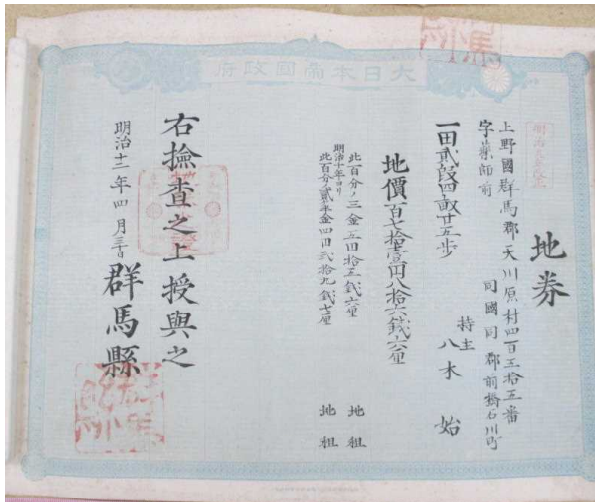
絵図北側(左上)の区画には、道の部分に「本町」「鍛冶町」「片貝町」など前橋城下町の9つの町名が記されています。村の大半は耕地で、耕地面積は田方63町余、畑方12町余、前橋台地上ながら、川・用水沿いに水田が広がる村であったこともわかります。

前橋市・篠田賢一家文書 P0009 No. 1

5. 壬申地券地引絵図の作成

⑫地券(天川原村455番、田2反4畝25歩、地価171円86銭6厘)

明治12年(1879)4月30日



これは、明治10年の地租改正反対一揆の盛り上がりに対し、地租を減額した際に出された地券です。

明治5年(1872)地租改正に際して発行された土地所有証券を地券と言います(壬申地券)。最初の地券は、土地所有権・納税義務を表示するもので、所有者・所在・地目・段別・代価が和紙に記載されました。一方、史料⑫の新しい地券(改正地券)では、代価が消え、代わりに地価・地租が記載されています。偽造を防ぐため西洋紙で作られました。

前橋市・八木健次家文書 P09702 No.1301